

## 大阪故鉄、JISHAグッド・セーフティー・カンパニーに登録

～『安全』を最優先にした取組強化～

(大阪)大阪故鉄(本社=大阪市住之江区、矢追大祐社長)は、このほど本社工場ならびに諸福営業所・工場(大阪府大東市)で、『中小規模事業場労働安全衛生評価事業(JISHAグッド・セーフティー・カンパニー)』に登録を受けた。同社はこれまで『安全』に対する取組を最優先に行なっており、この登録を機に、リスクアセスメントや危険予知活動などの安全衛生活動をさらに強化していく方針だ。

JISHAグッド・セーフティー・カンパニーは、中央労働災害防止協会(JISHA)が安全衛生の向上を目指す中小規模事業場の安全衛生活動を支援し、自らが設定した目標を達成できる企業力の強化と蓄積を後押しするため、基本的な安全衛生活動とそれを継続するための基盤ができているかどうかを評価する制度。評価は2度の技術指導、さらに専門家による実地調査とTOPや安全管理者との面談による1次評価、さらに協会内での委員会による2次評価により登録の有無の判断を行う。有効期限は3年で、令和6年12月6日まで。

大阪故鉄では全社員が参加して安全対策や知識の向

上に努める「安全衛生研修会」を毎年実施するなど、安全衛生活動に積極的に取り組んでおり、業界内での評価も高い。スクラップ業界では先駆けて同制度を活用し、業界内外で社会的認知向上が期待される中、矢追社長は「第三者機関による評価を受けることで、『安全』に対する取組強化と社員の意識向上、さらに業界内外でのイメージアップにも期待したい」と述べた。

さらに同社は今年9月には中小企業庁が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が認定する『事業継続力強化計画』を、同11月には環境マネジメントシステムISO14001:2015を認証取得している。SDGs宣言への取組も含め、『安全』や『環境』に対する社内整備の強化を次々と実行している矢追社長は「今後も社員が安心・安全に働ける環境を整備し、(将来を見据えた)社員育成にも尽力していきたい」と語った。



評価登録マーク